

高速道路の更新事業の経緯等について

高速道路の更新事業の経緯等について

<制度等について>

H17(2005).10.1

道路関係四公団民営化



H23(2011).12.9

高速道路のあり方検討有識者委員会とりまとめ
現行償還計画に含まれていない更新について、検討が必要



H24(2012).12.2
笹子トンネル天井板崩落事故

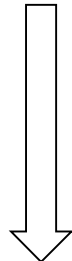
H25(2013).6.25

国土幹線道路部会中間答申
更新を進めるため、料金徴収の継続を検討する必要



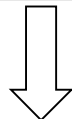
H26(2014).6.4

道路整備特別措置法等の改正(公布)
更新需要に対応するため、料金徴収期限を延長



R3(2021).8.4

国土幹線道路部会中間答申
更新・進化のために料金徴収期間延長を検討する必要



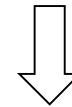
R5(2023).6.7

道路整備特別措置法等の改正(公布)
更新・進化需要に対応するため、料金徴収期限を延長

<更新事業について>

首都:H24(2012).3.5、阪神:H24(2012).11.8、NEXCO:H24(2012).11.7

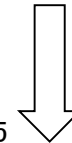
高速道路会社における有識者委員会設置



H26(2014).2.7

国土幹線道路部会(各社の更新計画(概略)について)

詳細な対策内容等を検討



首都:H26(2014).6.25

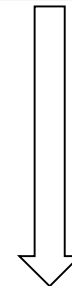
阪神・NEXCO:H27(2015).1.15

国土幹線道路部会(各社の更新計画について)

事業許可後、更新に着手

H26.7から開始した法定点検※により
新たに更新が必要な箇所が判明

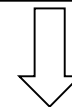
※点検は、必要な技能を有する者が近接目視により、5年に1回の頻度で行うことを基本とする。



R5(2023).2.16

国土幹線道路部会(各社の更新計画(概略)について)

詳細な対策内容等を検討



R6(2024).1.16(本日)

国土幹線道路部会(各社の更新計画について)



事業許可後、新たな更新に着手

各社の現更新事業の進捗状況 (R5.12末時点)

- 劣化が著しい箇所等において、抜本的な対策として、2014(H26)年より更新事業を実施中。
- 更新事業の計画額約5.5兆円に対して、約2.6兆円が契約済(進捗率約48%)。

	首都	阪神	NEXCO3社	本四	6社計
① 更新費(計画額)	約 9,300億円	約 4,200億円	約 41,200億円	約 270億円	約 55,000億円
② 更新費(実績額)	約 4,400億円	約 1,700億円	約 20,100億円	約 120億円	約 26,400億円
③ 契約率(②/①)	約47%	約41%	約49%	約46%	約48%

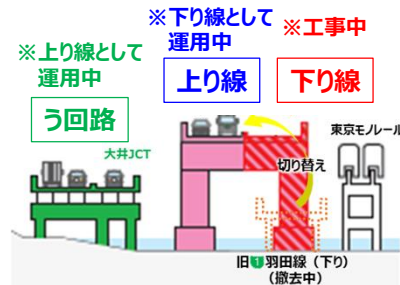
※ 2023(R5)年12月末時点

■ 東品川棧橋・鮫洲埋立部

- 1963(S38)年12月開通。海水面に近く、コンクリート桁の剥離や鉄筋腐食等が発生。
- 現在よりも高い位置に造り替える更新事業を実施中。



コンクリート桁の剥離・鉄筋腐食



現在の工事進捗状況



現在の工事状況(下り線の橋梁工事)



更新前の状況



完成イメージ

■ 中国自動車道 坂原橋

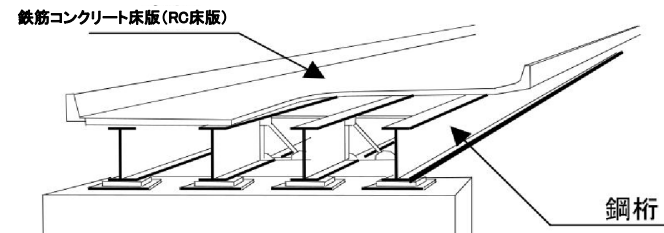
- 1983(S58)年開通。全長398mの鋼橋(鉄筋コンクリート床版)。
- 凍結防止剤による塩害で床版が著しく損傷し取替を実施。



床版下面はく離、鉄筋の腐食

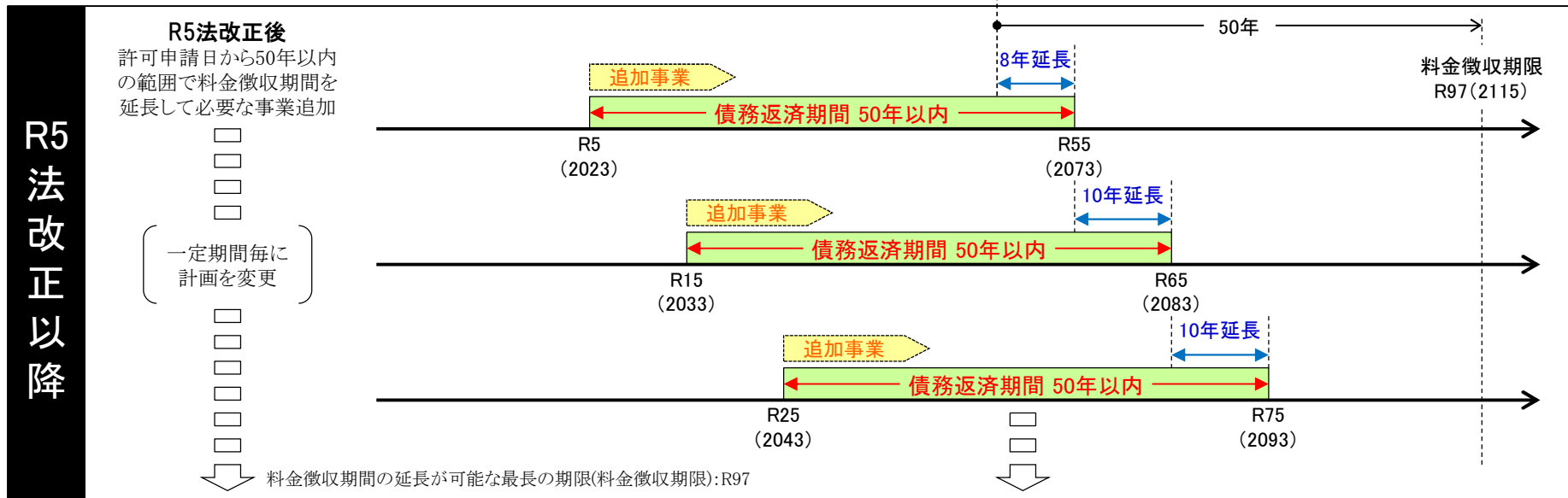
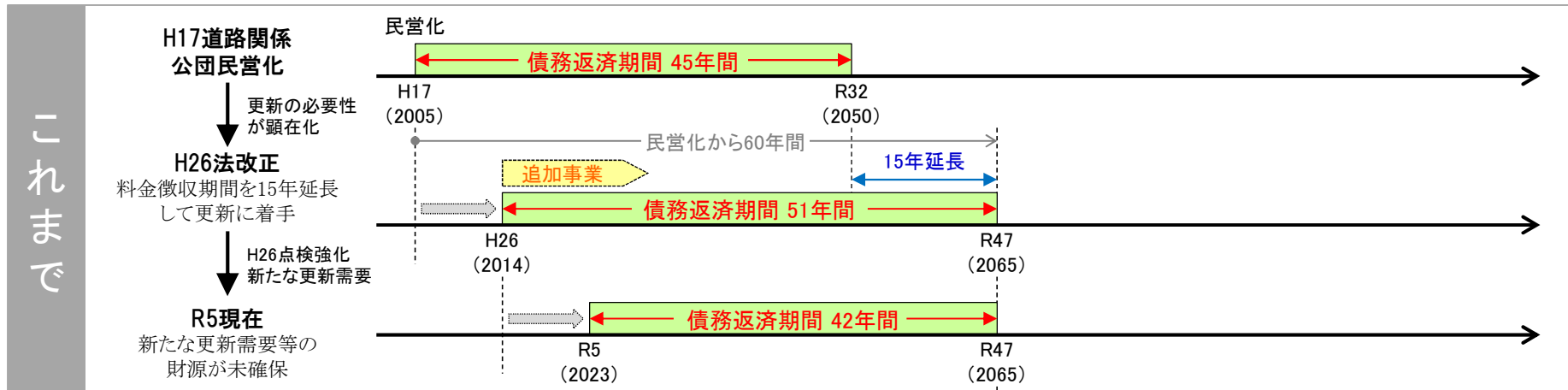


既設床版の撤去状況



高速道路の料金徴収期間の延長イメージ(R5法改正)

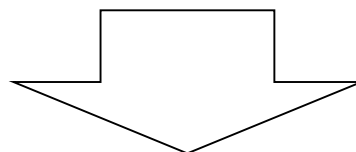
- 有料道路制度は、借入金(債務)で必要な事業を実施し、一定期間の料金収入によって債務を返済する制度。
- 更新・進化のため、料金徴収期間を延長し、必要な事業を追加。その際、債務返済確実性の観点から、債務返済期間は許可申請日から50年以内と設定。なお、料金徴収期間の延長は、最長でも令和97年(2115年)までと設定(料金徴収期限)。



各社の更新計画

【前回:各社の更新計画(概略)】(令和5(2023)年2月16日 国土幹線道路部会)

	首都高速	阪神高速	NEXCO3社
新たに 更新が必要	約22km 約3,000億円	約22km 約2,000億円	約500km 約10,000億円



詳細な対策内容等を検討

【今回:各社の更新計画】

	首都高速	阪神高速	NEXCO3社
新たに 更新が必要	21.6km 3,056億円	22.4km 2,169億円	512km 10,004億円

※本四高速については、現時点で新たに更新が必要な箇所は顕在化しておらず、引き続き、適切な維持管理を実施